

新時代の事業戦略を占う

TFR
東京コンパニョーニヤ

RECEIVED
02 APR 2019

木工情報

カーゴ

TM

1999年3月31日 第三種郵便物認可

2019 3/18

毎週月曜日発行 ● 通巻3283号

http://www.tfr-dataroad.com

uafi
MALAYSIAN INTERNATIONAL FURNITURE FAIR 2019



3.8-3.11
マレーシア



ペットインテリア展
ワンルームだニヤ

2019.11.13wed-15fri
10:00~17:00

会場 東京ビッグサイト西4ホール

<http://www.petinterior.com>

ペットインテリア協会
Pet Interior Association

株式会社 エス・ワールド

ユーロスパン (EUROSPAN) 事業部
ホーバン (HOBANG) 事業部

EUROSPAN JAPAN
LEADERSHIP THROUGH INNOVATION

HOBANG JAPAN
SIMPLY FOCUS PROFESSIONAL

〒140-0019 大田市中南区和泉町 1-1-14 ワイエムビービル 6 階
TEL(06)4790-8755 FAX(06)4790-8756 e-mail: info@sworld.co.jp

●台湾事務所 (台北) ●ベトナム事務所 (HOCHIMINH) ●インドネシア事務所 (SURABAYA)
●タイ事務所 (BANGKOK) ●マレーシア建築工場 (PENANG) ●中国建築工場 (中山)

<http://www.sworld.co.jp>

※複製、この印刷物は、環境にやさしい植物性大豆インクを使用しています。

みなさまからの便りをお待ちしています。 info@tfr-dataroad.co.jp



MALAYSIAN INTERNATIONAL FURNITURE FAIR 2019

25周年を祝う MIFF2019 益々華やかに



2019年3月8日（金）から11日（月）にかけて、マレーシア・クアラルンプールにて“MIFF2019”が開催された。東南アジア最大の展示会として確固たる地位を築いたMIFFは今回で25周年を迎えた。会場はこれまで慣れ親しんだ“Putra World Trade Centre (PWTC)”と昨年から新たな会場に加わった“Malaysia International Trade & Exhibition Centre (MITEC)”の2会場18ホールで10万㎡を誇る。出展者数は14ヶ国地域から過去最多の650社を超え、来場者数は140ヶ国地域から2万人以上が来場する。初開催から25年を経てもなお拡大・進化し続けるMIFFは世界各国の有力バイヤーが欠かすことのできない展示会として広く認知されている。

Celebrating 25 Great Years With You. For You
 —25年の感謝をこめて



↑ 500名以上が招待された Buyers' Night



↑ Buyers' Night のVIP席で紹介される
 マナベインテリアハーツの真鍋社長



↑ 各国の言語で表示された感謝の言葉。MIFF
 スタッフの25年の思いが込められている



↑ Buyers' Night では豪華景品が当
 たるピンゴゲームも開催された



← Welcome Reception の参加者がピースを埋
 めて完成した25周年記念のロゴ



↑ Buyers' Night は和太鼓の躍動
 感あふれる演奏でスタートした



↑ Welcome Reception の最後に MIFF への多大な貢献を表彰さ
 れた東京インテリア家具の利根川会長



↑ 台湾區家具工業同業公會の江清水会長は MIFF
 への長年のパビリオン出展で表彰された

充実したホスピタリティで人気

MIFF を訪問したバイヤーがまず口をそろえて称賛するのが充実したホスピタリティと MIFF スタッフの温かい対応だ。空港からホテルまでの送迎や Welcome Reception、Buyers' Night といった盛大なイベントでの歓迎ぶりは他の展示会とは比べ物にならない。多大な予算をバイヤー誘致に割いていることは事実だが、ビジネスライクなものというよりはスムーズな会場の視察ができるように、マレーシアを楽しんでもらいたいといった思いから細やかな配慮が行き届いている。MIFF の歓迎ぶりは日本でのおもてなしに近い感覚といえるかもしれない。今回初めて MIFF に来場した日本人バイヤーからは「世界の展示会をいろいろと見てきたが、これだけの歓迎を受けたのは初めてだ」との感想も漏れ聞こえてきた。久しぶりに MIFF を訪問したバイヤーは「やっぱり MIFF はいいね」と笑顔を見せた。

今回の MIFF は 25 周年ということもあり、これまで MIFF を支えてくれたバイヤーや出展者、関係者に対して感謝の気持ちを伝えるイベントが多く開催された。展示会初日の夜に開催された Welcome Reception では、多くの関係者が MIFF への多大な貢献から表彰された。表彰式の最後に壇上に上がったのは東京インテリア家具の利根川会長だった。展示会 2 日目夜の Buyers' Night では、ゼネラルマネージャーのカレン・ゴイ氏が各国の言葉でそれぞれ「ありがとう」を意味する言葉を述べて感謝

の気持ちを伝えた。

MIFF が 25 年にわたって盛大に開催され、東南アジアでもっとも価値のある展示会として評価されてきた理由のひとつにこのホスピタリティの充実がある。

高まるマレーシア家具の需要

MIFF は今年過去最多 650 社を超える出展者が集まり、多彩な家具が展示された。東南アジア最大の展示会として MIFF が支持されているのは、もちろんホスピタリティによるものばかりではない。展示会場に魅力的な製品が並ぶからこそ、世界 140 ヶ国から 2 万人以上の来場者が MIFF を訪問する。マレーシア家



↑ Welcome Reception で表彰された家具新聞の加納編集長



↑ 東洋ファニチャーリサーチも MIFF から表彰を受けた



↑ MIFF から表彰を受けた利根川会長と東京インテリア家具の皆さん



↑ 昨年から新会場として使用されている MITEC

具はオールラウンドに製品が揃っているのも特徴の一つで、製品群の偏りは少ない。初期のころは日本製の家具製品と比較して、機能性やデザイン性、品質などで粗悪なものも多く見られたが、今日では優れたデザイン性やトレンドを取り入れた高付加価値の家具がずいぶん増えている。

今回、日本訪問団は 59 名を数えたが、初めての MIFF 訪問や久しぶりに参加するバイヤーが多かった。



↑ フランスベッドは 4 年連続で MIFF に出展



↑ MIFF 初出展の向陽技研

初参加のバイヤーは、「ダイニングを探しに来たが、思った通りの製品があったので良かった」、「オフィス家具を見に来てみたが、意外な発見もあった」といった声があった。久しぶりに MIFF を訪問したバイヤーからは「中国の人工費高騰による仕入れ値の値上がりで、その代替品をマレーシアに探しに来たが、中国より安いもの多くて助かった」という話もあった。以前は中国製品に対してマレーシア製品の価格面での優位性は乏しかったが、ここ数年でその情勢は変化し、製品の品質の安定性と価格面でマレーシア家具も国際的な競争力を着実に伸ばしている。以前から中国製品の値上がりや政情不安から製造拠点として「チャイナ・プラス・ワン」はしきりと叫ばれてきた課題ではあるが、家具仕入れルートとしても「チャイナ・プラス・ワン」は現実的な問題となっている。今回の訪問団の中にも MIFF よりも 2 日早くベトナム・ホーチミンで開催された「VIFA-EXPO 2019」を視察した後に MIFF を訪問したバイヤーが多かった。中国以外の仕入れルートの確保のため、ベトナムやインドネシア、マレーシアへの期待度は高い。

日本からの MIFF 出展も継続

昨年の MIFF2018 では、日本からフランスベッドが出展したが、今年も継続出展し、今回で 4 年連続の出展となった。フランスベッドの出展場所は昨年から会場として使用されている MITEC の 4 階 11 ホール。このホールは“International”のカテゴリーに分類され、世界各国のブランドが集まっている。フランスベッドではマレーシアの気候を考慮して、接触冷感の抱き枕などを多く展示。その他にもマッサージ機やリクライニング機能付きマットレスなどを展示し、多くの来場者で賑わった。ブースではとくに抱き枕などが人気を集めていたが、マットレスも今後の受注につながる可能性の高い話がいくつかあったようだ。

今回の MIFF には日本から向陽技研も初出展した。フランスベッドと同様に MITEC の 4 階 11 ホールに

出展し、リクライニング機能に欠かせないラチェットギアとそのデモ機のソファを展示した。同社は海外輸出比率の高い企業だが、これまでマレーシアは未進出であった。そのため、市場の可能性を探るためにも出展したが、今後のマレーシアへの輸出に向けて確かな手ごたえを感じたようだった。

マレーシア市場に興味を持つ日本企業は多く、すでに次回の MIFF2020 出展に向けて動き始めている日本企業もある。今後はさらに多くの日本企業が MIFF に出展し、将来的には日本パビリオンとしての出展も十分に現実味を帯びてきた。これまでの MIFF は日本人バイヤーが家具を買い付ける展示会として機能してきたが、これからは日本家具輸出の窓口としても機能していこう。

各種コンペティションも継続開催

会期 3 日目の 3 月 10 日（日）には MITEC にて



↑ MIFF では広いブースに凝った装飾を施す出展者が増えてきている。とくに MITEC は国際ブランドが多く、その傾向が強い

MIFF2019 PRIZE PRESENTATION CEREMONY が開催された。セレモニーでは 3 つのコンペティションの受賞式を実施。Furniture Design Competition (FDC) は若手デザイナーの登竜門となるコンペで、2010 年から毎年 MIFF で開催されており、今回で 10 回目となる。若手デザイナーのスキルやモチベーション



↑ 3 月 10 日に MITEC で実施されたセレモニーの様子。受賞者が読み上げられるたびに会場からは歓声と拍手が巻き起こっていた



↑ FDC の最終選考通過者 20 名は会場内にパネル展示された



↑ 次世代のオフィス家具がテーマの今回の FDC は斬新なアイデアやデザイン性に優れたものが多く見受けられた

の向上は、そのままマレーシア家具業界のデザイン性や品質向上に寄与するとの考えが根底にある。この10年間でFDCに応募した学生数は2,000人を超えた。今年の募集テーマは「次世代のオフィス家具」。最終選考に残った20人が考えたオフィス家具はいずれもデザイン性や機能性に優れたものばかりで、未来のマレーシア家具の可能性を大いに感じさせてくれるものばかりだった。FDCの審査員には今年も三井デザインテック(株)の見月伸一氏が名を連ねている。

Furniture Excellence Awardは出展製品の中から革新的で品質に優れた製品から選出される。カテゴリーは家庭用家具、事務用家具の2部門に分かれ、それぞれプラチナ賞・金賞・銀賞が設けられている。BEST PRESENTATION AWARDはMIFFの全出展社の中から出展ブースデザインや展示方法の優秀な出展社に贈られる。

広がる交流の輪

MIFFから多くの歓迎を受けた日本訪問団が毎年開催しているのが「さよならディナー」だ。PWTCの隣にあるSeri Pacific Hotelの4階にある和食レストラン幸福で3月10日夜に開催された。参加者は東京インテリア家具の利根川会長やマナペインテリアハーツの真鍋社長をはじめとする日本訪問団22名のほかにMIFF創始者のダトゥ・タン氏、UBMアジアのマネージングディレクターであるMガンジー氏らMIFFスタッフが参加。ほかにも、台湾の家具団体のスタッフやマレーシア・台湾・中国の企業が多く参加し、参加者は47名にのぼった。会食中にはそれぞれの家具業界の情報交換などが各テーブルで実施され、国・地域や業態を超えた交流の輪が広がった。

次回のMIFF2020は、2020年3月6日(金)から9日(月)に開催を予定している。会場は2019年と同じくPWTCとMITECの2会場を使用しての開催となる予定だ。



↑ さよならディナーで挨拶する日本訪問団団長の東京インテリア家具利根川会長



↑ さよならディナーに招待され挨拶するUBMアジアのガンディー氏。日本人バイヤーの来場者や出展者に対して感謝の言葉を述べた



↑ さよならディナーの参加者は国や業態の垣根を超えて交流した